

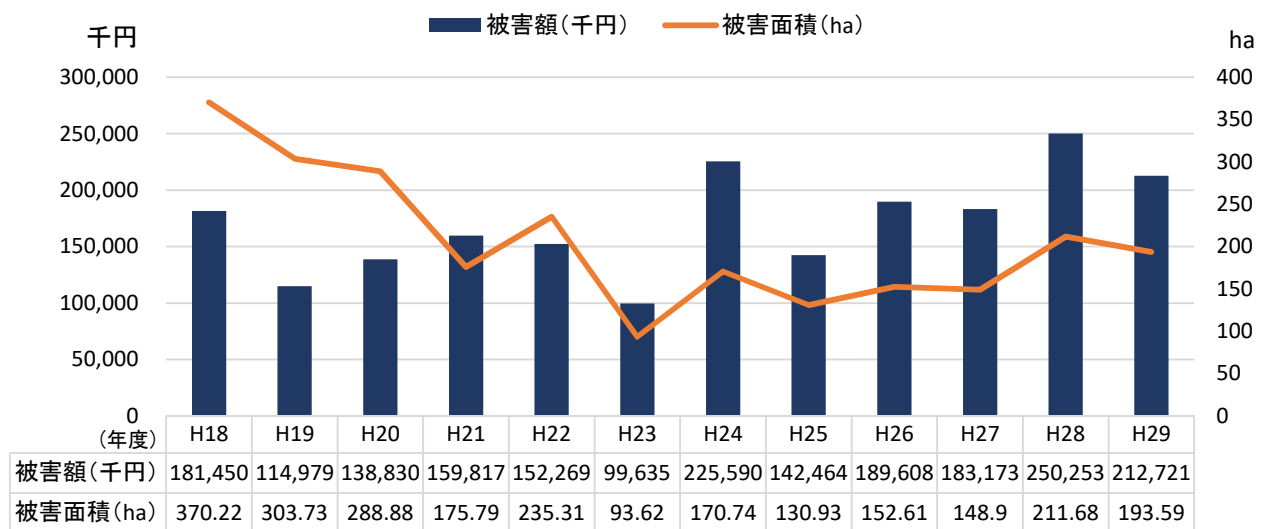
## 平成30年度 鳥獣被害対策の取組について

県では、鳥獣被害対策に取り組んできたが、県内の農作物被害額は、増加傾向にある。

そのため、平成29年度に「かながわ鳥獣被害対策支援センター」を設置するなど鳥獣被害対策を強化していることから、平成30年度の主な取組状況等について報告する。

### 1 これまでの取組状況

#### (1) 県内の農作物被害額等の推移



#### (2) 県内の鳥獣捕獲数の推移

鳥獣被害をもたらす主な鳥獣の捕獲数は増加傾向にある。

区分 \ 年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29(速報)
ニホンジカ	1,627頭	2,083頭	2,049頭	2,143頭	2,297頭	2,851頭	2,780頭
ニホンザル	56頭	114頭	74頭	173頭	108頭	139頭	200頭
イノシシ	1,033頭	1,625頭	981頭	1,578頭	1,520頭	2,603頭	2,196頭

### 2 平成30年度の取組

#### (1) ニホンジカ対策について

平成29年3月に策定した「第4次神奈川県ニホンジカ管理計画」に基づき、対策を推進する。

<主な取組>

平成30年度事業実施計画を平成30年7月に策定し、シカの生息や植生の状況に応じた個体数調整を進めている。丹沢山地の山稜部に加え、定着防止区域である箱根山地においても、県による管理捕獲を強化す

るとともに、市町等においても捕獲が進んでいる。

(2) ニホンザル対策について

平成29年3月に策定した「第4次神奈川県ニホンザル管理計画」に基づき、対策を推進する。

<主な取組>

平成30年度事業実施計画を平成30年5月に策定し、群れごとの目標等を定めた。市街地を中心に生息する管理困難な群れや、生息エリアが重複する群れについては、群れの除去に向けた捕獲を行っている。GPSを用いた効果的な追い上げなど、市町村等への技術的支援に努めながら対策を進めている。

(3) イノシシ対策について

イノシシによる農作物被害の軽減や生息分布の拡大を防止するため、新たに「神奈川県イノシシ管理計画」を策定し、生息分布拡大を抑制するための捕獲など対策を強化する。

<主な取組>

平成30年10月に策定した管理計画に基づき、イノシシに係る「地域ぐるみの対策」を支援するとともに、県としても、国の指定管理鳥獣捕獲等事業交付金を活用して、イノシシの生息分布拡大を防止するため、囲いわな等による捕獲やICTを用いた試行的な捕獲に取り組んでいる。

(4) かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組について

鳥獣被害対策は、集落環境整備、防護対策及び捕獲の3つの基本対策を、地域が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」が効果的である。

こうした取組を広げていくため、地域県政総合センター単位で実施していた支援を集約して、高い専門性を持つ「かながわ鳥獣被害対策支援センター」を平成29年度に設置した。

平成30年度は引き続き、市町村や関係機関と連携して効果的な対策の提案、技術支援、効果検証などの支援を行っている。

ア 設置場所

平塚市西八幡1-3-1 平塚合同庁舎別館

イ 体制

10名（常勤6名、非常勤4名）

- ・常勤 リーダー（事務）1名、鳥獣被害対策支援マネージャー1名
- 主査（農業）2名、主査（林業）1名、主任主事（事務）1名

- ・非常勤（4分の3） 鳥獣被害対策専門員 4名
  - ※地域県政総合センター単位に地域別担当者を定めている。
  - ※機動力：ワゴン1台、ライトバン1台、軽トラック2台

## ウ 業務内容

### (ア) 「地域ぐるみの対策」支援

- ・鳥獣の出没及び被害等の状況把握、対策への合意形成の支援
- ・重点取組計画策定支援、対策の実施、効果検証

### (イ) 個別対策の技術支援

- ・ニホンザルの管理に係る専門的な技術支援
- ・指定管理鳥獣（イノシシ）捕獲等事業の実施
- ・個別対策に係る相談への助言、わなのかけ方など技術的指導

### (ウ) 人材育成

- ・地域リーダー育成、市町村職員等への研修

## エ 「地域ぐるみの対策」の立ち上げ支援

市町村や地域住民等が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」を普及していくため、平成29年度に「重点取組地区」を6地区選定し、「地域ぐるみの対策」の立ち上げ支援を行ったところ、鳥獣対策の3つの基本対策である集落環境整備、防護対策及び捕獲に対する地域での共通理解が深まり、取組の体制が構築された。

平成30年度は、新たに5地区を追加選定し、平成29年度選定地区と合わせて11地区で取組を進めている。

### (ア) 重点取組地区の選定

#### <選定の視点>

次の視点で今年度の重点取組地区を選定した。

- a 鳥獣種及び地域的に地域ぐるみの対策の空白域となっている。
- b 鳥獣による人身被害が懸念されるなど、緊急に解決すべき問題がある。
- c 侵略的な外来生物等の被害の初期段階にある。
- d 他施策との連携により対策の相乗効果が期待できる。

<選定地区>

◆ 平成30年度～【5地区】

項番	地区名	主な対象鳥獣	地域事情と主な取組状況 【平成31年2月25日現在】	選定の 視点
1	横須賀市 東浦賀町 2丁目地区	サギ	サギ営巣地の社寺林と餌場になっている生簀(いけす)が近接し、社寺林に隣接する住宅地で糞被害が増加している。 住民、社寺林の所有者、生簀を営む漁業者等による地域ぐるみの対策が期待できる。 現在、サギの生息状況や社寺林の植生環境の調査を終え、12/1に地域住民との勉強会を行った。	a、b
2	愛川町 田代(平山) 地区	イノシシ	イノシシによる住宅周辺の掘り起こしや人前への出没による脅威などの生活被害が深刻化している。農家以外の住民に対策の必要性を意識づけ、地域ぐるみの対策への参加を促すことが必要である。 現在、ドローンによる集落環境調査等を終え、随時勉強会を行うとともに、自動撮影カメラによる監視を実施している。 また、自治会回覧によりイノシシに対する注意喚起を行うとともに、対策として、1/25に広域防護柵の補修を行い、新たに箱わなによる捕獲を進めている。	a、b
3	藤沢市 葛原地区	ノウサギ等	ノウサギなど中小型動物による在来大豆等への被害が発生している。在来大豆の栽培に取り組む団体を中心にした地域ぐるみの対策が期待できる。 これまでに、ドローンによる集落環境調査等を終え、随時勉強会を行った。 また、対策として、7/24から8/28まで「展示ほ」* (電気柵)を設置したところ、被害防止が図られた。 また、5/22～12/14まで自動撮影カメラでの監視を行いながら、被害状況などの確認を行った。	a、b、d
4	大磯町 生沢・寺坂 地区	イノシシ ハクビシン等	多様な作物が栽培され、イノシシなど多種類の鳥獣による被害が発生している。 H30年度に町がJAとともに対策を支援する計画があり、連携して総合的対策を行うことで高い効果が期待できる。 現在、ドローンによる集落環境調査等を終え、随時勉強会を行うとともに、自動撮影カメラによる監視を実施している。 また、対策として8/27に「展示ほ」(電気柵)を設置、9/2に電気柵の点検などを、9/3に電気柵設置や果樹等の伐採を行うとともに、町が猟友会に委託して箱わなによるイノシシ捕獲を行っている。加えて、11/3、4に地域の文化祭において、取組状況などの展示及び資料配布を行った。さらに、自治会回覧による情報提供のほか、1/12に鳥獣被害に強い果樹剪定方法の講習会を行うとともに、2/3～5に電気柵の設置や竹林、ヤブの整備、果樹の剪定、伐採を行った。	a、b、c、d

項番	地区名	主な対象鳥獣	地域事情と主な取組状況 【平成31年2月25日現在】	選定の視点
5	湯河原町 鍛冶屋・城堀 ・宮下地区	イノシシ サル	ミカン等が栽培されており、イノシシによる被害の急増が懸念され、また、サルによる恒常的な被害が発生している。営農団体を中心にモデル的な対策を行うことで、近隣地域への波及が期待できる。 現在、ドローンによる集落環境調査等を終え、随時勉強会を行なっている。 また、対策として、10/4に電気柵・わな捕獲・追い払いに関する講習を、1/21～23、1/28～30、2/18～20にGPSを用いたサル管理技術の試行としてサルの追い上げを実施し、2/25にサルの追い上げとイノシシ防護柵設置の研修を行った。	a、b

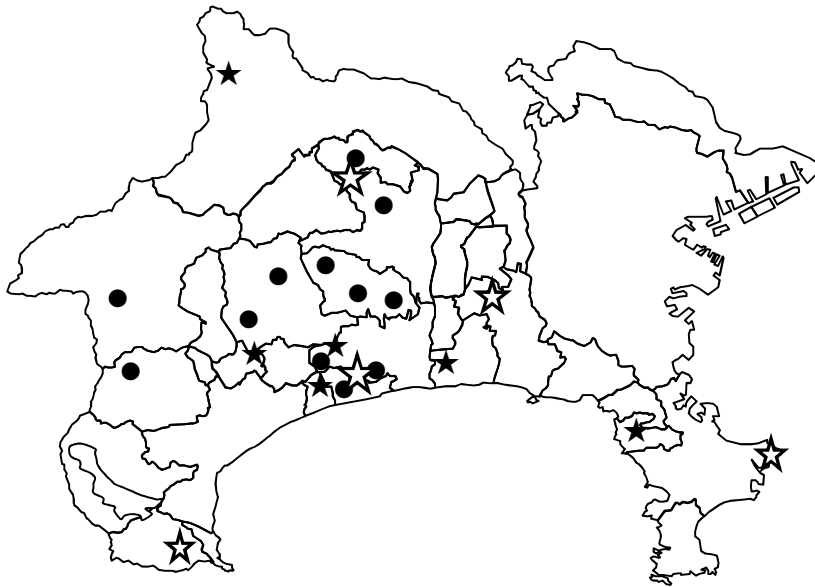
※「展示ほ」：実際の農地に電気柵等の侵入防止技術などを展示し、その効果を実証するためのほ場

#### ◆ 平成29年度～【6地区】

各地区とも取組の体制が構築され、次のような取組が行われている。平成30年度は、集落環境整備、防護対策、捕獲など地域の自主的な取組状況を把握して、ヤブ刈りの手法や防護柵の設置計画、捕獲わなの運用といった、技術面でのフォローアップを行っている。

項番	地区名	主な対象鳥獣	主な取組状況	選定の視点
1	葉山町 二子山 地区	イノシシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センサーカメラによる監視</li> <li>・ヤブ刈りの実施</li> <li>・防護柵の設置</li> <li>・イノシシ対策講習会の開催</li> </ul>	a、b
2	相模原市 緑区 名倉地区	イノシシ シカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンによる集落環境調査を試行</li> <li>・電気柵設置講習、わな捕獲講習の開催</li> <li>・センサーカメラによる監視</li> <li>・雑草抑制シートの施工</li> <li>・箱わな等による捕獲の実施</li> </ul>	a、d
3	平塚市 土沢地区	イノシシ シカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センサーカメラによる監視</li> <li>・電気柵講習会の開催</li> <li>・ヤブ刈りの実施</li> <li>・広域防護柵の設置</li> <li>・「展示ほ」の設置</li> <li>・箱わなによる捕獲の実施</li> </ul>	a、d
4	茅ヶ崎市 萩園地区	アライグマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センサーカメラによる監視</li> <li>・従来の箱わなに加え、巣箱型わなによる捕獲の実施</li> </ul>	a、c
5	二宮町 一色地区	イノシシ シカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤブ刈りの実施</li> <li>・電気柵講習会の開催</li> <li>・箱わなによる捕獲の実施</li> </ul>	a、d
6	大井町 高尾地区	イノシシ シカ ハクビシン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センサーカメラによる監視</li> <li>・「展示ほ」の設置</li> <li>・箱わな等による捕獲の実施</li> </ul>	a、d

【参考】地域ぐるみの鳥獣被害対策の支援状況



凡例

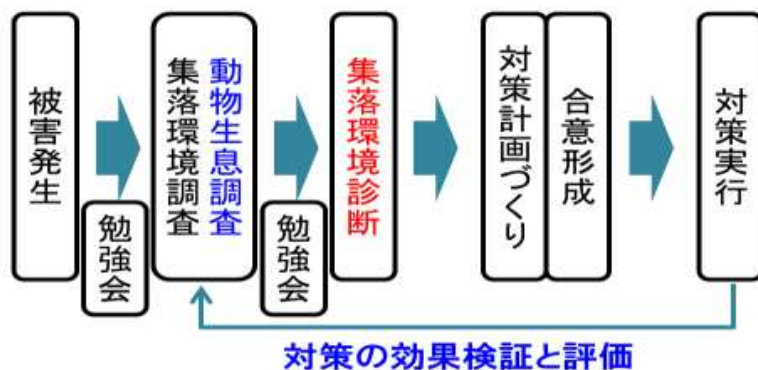
- : 平成 24～28 年度に取組支援を行った地域
- ★ : 平成 29 年度～ 重点取組地区
- ☆ : 平成 30 年度～ 重点取組地区

(イ) 重点取組地区の対策の進め方

被害が発生している地域の現状を把握し、必要な対策について合意形成を図りながら計画を作成し、実行する。そして、対策の効果検証と評価を行いながら、地域の自立を促す。

また、「地域ぐるみの対策」の普及を図るため、重点取組地区の対策の効果を広く周知するとともに、他の地域の住民が参加できる現場での被害対策技術講習会を開催する。

対策実行の手順



※耕作地単位の被害箇所数の変化等により具体的な効果を把握



集落環境診断  
(平成 30 年 6 月 3 日 大磯町生沢地区)

オ ニホンザルに係る専門的な技術的支援

第4次管理計画に基づく各年度の事業実施計画の策定と事業実施に当たり、モニタリングや効果的な事業実施に向けた技術的支援を行う。

(ア) ニホンザルの効果的な追い上げの試行

G P S首輪による効果的な位置情報の把握など、新たなI C T技術を活用した追い上げを試行している。

<スケジュール>

平成30年10月～平成31年3月

G P Sを用いたサルの管理技術の試行に係る委託業務の実施

(イ) ニホンザルのモニタリングの実施

群れごとに発信器を装着し、個体数及び行動域などの生息状況調査を実施している。

<スケジュール>

平成30年8月～平成31年3月

ニホンザル生息状況調査委託業務の実施

(ウ) 捕獲したニホンザルの個体分析

捕獲した個体の性・年齢から、捕獲が的確に行われていることを検証するとともに、繁殖状況や栄養状態をモニタリングしており、得られたデータを次年度の計画に活用する。

<スケジュール>

平成30年7月～平成31年3月

ニホンザル捕獲個体分析委託業務の実施

カ 指定管理鳥獣（イノシシ）捕獲等事業の実施

近年、生息分布が拡大し、生活被害・人身被害の急増が懸念されている横須賀三浦地域において、平成30年10月に策定した神奈川県イノシシ管理計画に基づき、県による捕獲を実施する。

(ア) 生息分布域拡大防止のための捕獲

イノシシの定着を解消するため、箱わな及び群れごと捕獲する囲いわなによる捕獲を実施している。

<スケジュール>

平成30年12月～平成31年3月

イノシシ捕獲委託業務の実施

<実施場所>

葉山町内

(イ) ICTを用いた捕獲技術の現地検証

多数のくくりわなを一括で遠隔監視するシステムを試行運用し、わなの見回り負担軽減の効果を検証している。

<スケジュール>

平成30年12月～平成31年3月

ICTを活用したイノシシ捕獲の試行委託業務の実施

<実施場所>

横須賀市内、逗子市内、葉山町内

キ かながわ鳥獣被害対策アドバイザー制度の実施

J A神奈川県中央会と連携して、各地域の営農指導員など農協職員を対象に1年を通じて6回程度の実務研修を行い、農家が気軽に相談できる身近なアドバイザーとして必要な知識、技術の習得を行う。

<内容>

(ア) 座学研修：関連法規と農業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等

(イ) 実技研修：集落環境調査、被害の見分け方、藪刈作業、残さの処理、簡易柵の設置等

(ウ) 事例紹介研修

<開催実績等>

6月6日	第1回研修会（座学研修）	13名
7月26日	第2回研修会（実技研修）	13名
9月19日	第3回研修会（実技研修）	12名
12月6日	第4回研修会（実技研修）	11名
1月24日	第5回研修会（実技研修）	10名
2月22日	第6回研修会（ケーススタディ）	
	修了証授与	13名